

2024年6月14日（金）

老球の細道805号

### ある日の孫たちのストリートバスケット

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昔米国映画のシーンによくあったが、孫に家周辺の道路をドリブルしながら散歩することをやらせていた。そしたら孫の同級生で、孫とは別なチームでミニバスをやっている子がボールを持って駆け寄って来た。ボールを空中に上げキャッチする練習を二人で始めた。

私は車が来ないかを監視しながら、二人の微笑ましい光景を眺めていた。そしたら同級生の友達が私の孫に話しかけた。「いいなー！ミト君（孫の名前）はバスケットが上手なお爺ちゃんに教えてもらえて・・・」。小学2年生の子どもにリスペクトされた私は思わず微笑み「素直で正直なお友達だね！」と褒めてやった。そしたらわが孫は「爺よりパパのほうがうまいよ！」と小憎らしいことを言った。孫は爺に人一倍厳しい。

その後、練習場所を自宅前の道路に移動しドリブルハンドリングとパスキャッチの練習をした。基本をきちんと教えようと思ったが、孫息子はふざけてばかりでなかなか私の思うようにはいかなかった。低学年のミニバス指導者は日常茶飯事のことだろう。

外でボールの音が聞こえたので4年生の孫娘も宿題を途中にして外に出て来た。孫娘もドリブルハンドリングとパスキャッチの練習を始めた。ミニバスを始めた2か月前に比べると、爺馬鹿かもしれないが相当上達していた。この辺で止めておけばよかったのだが、孫たちの意欲に負けて、次のステップのドリブルチェンジをやらせた。コンクリート道路、大人用のボール、いつ通るかかわからない車のプレッシャーに負けないで、フロントターン、レッグスルー、ビハインドとぎこちない動作でなんとかこなせるようになった。

物事は何でもそうであるが、やめ時というものがある。道路での練習もそのくらいにして家の中に戻り宿題の途中に頭を切り替えさせるべきだった。ところが、孫の意欲的な姿に負けてしまい、私は昔のイケイケコーチに戻ってしまった。孫娘と孫息子にドリブル1：1をやらせてみた。私は車の往来を監視しながら二人の競り合いに将来の夢を見た。その時である。思わぬ事故が起きてしまった。

ドリブルで走っていた孫娘がディフェンスしていた孫息子の足にひっかかり転んでしまった。半そで短パンでプレイしていたので両膝をすりむき、左手首を痛めてしまった。たいした転倒ではないと見ていたが、あまりにも痛みが、血がにじみ出っていたので、あわてて薬局に必要な薬を買いに出かけた。車を運転しながら、現役コーチ時代に選手にケガさせてしまって何度も後悔したことを思い出した。また同じことをしてしまった。爺は懲りない。

親が仕事から帰宅して孫たちにケガの状況を聞いていた。その時にママから「あれほど道路でバスケットをやるなど言ったのに！」と孫たちは叱られた。私は親がダメだと言ったことを許してしまった。子どもは少しくらいケガしながら成長するものだと思ったからである。翌日、また外で練習しようとしたら、孫たちは「やらない！」。やはり爺より親である。

週末、孫たちの初のミニバス公式戦がスタート。爺の夢は夜開く。眠れそうにもない。